



4連勝の葵盛と1敗の朱雀湖は押し倒して

朱雀湖。1敗同士の対戦となった伊勢旭と黒



伊勢旭●(寄り切り)○黒雲海

初土俵以来10年、十兩上位まで行きながらそのたびに跳ね返されてきた真田丸が今場所では好調。東二枚目でここまで4勝1敗。



真田丸○(押し倒し)●寶蔵

十両も四日目と五日目を終えて勝ちっぱなしがいなくなり、真田丸、風神丸ら7力士が1敗で五日目を終えた。

十両も全勝が消えて混沌

後ろに2枚ほどしかなく、十兩に陥落すれば引退という声も囁かれていた今場所だったが底力を見せている。

今場所も5番を取り終え、残り6番。中盤後半戦に向かっているが、直接対決まで上位陣がこのまま白星を積み重ねて優勝争いを大いに盛り上げていってほしい。

次の本場所は11月3日の開催予定。乞うご期待！
(錦風)

五日目の幕内最初の取組で登場したのは、ともに前頭十三枚目で4連勝の烏帽子岳と3勝1敗の出羽翼。ともに元関脇で、かつては三役で対戦していた2人だけに「幕内最初の登場するとは！」とオールドファンから驚きの声が上がっていた。

幕下は錦風部屋の独壇場

幕下は8名を擁する錦風部屋が鍵を握る。

幕下も初日の取り組みが行われた。上位陣は東の三枚目までの5名が先場所からの陥落組。

その十兩復帰を目指す5名のうち幸先よく白星スタートを飾ったのは栃尾山と荒鷹。さらに三枚目の強久根、四枚目の自力岳と強豪春日根部屋の2人が虎視眈々と十兩を狙う。

今場所鬼門の東筆頭に座ったのは十兩から陥落となった日向藤。友砂親方が廻しを付けて替えたものの、前袋はそのまま残してあり、これは一場所で戻った。

この措置とみるのか、単に剣がすのが面倒だったかとは定かではないが、多分後者。

そして勝負は栃尾山にあっけなく寄り切りなれた。黒星スタートとなった。二日目からの盛り返しに期待が寄せられる。



日向藤●(寄り切り)○栃尾山



達子波○引き落し)●超刃



巨鵬○(寄り切り)●柏陵山

雲海の一歩は寄り切って黒雲海が1敗を守った。

黒星が先行して苦しい番所の達子波と巨鵬だが五日目は揃って白星。まだ黒星先行だが中盤以降の取り組みで十兩残留に期待がかかる。(鹿)

そんな上位陣のなか、六枚目までに7名が名を連ねる錦風部屋。先場所幕下に昇格した十三枚目の鑑島を含めると8名を擁し幕下は錦風銀座状態。

「こんなに錦風がいっぱいいたら、割りが組めなくなるよ」とは鹿賀乃戸親方。さすが錦風親方は「そんなこと言われても俺のせいじゃないよ」。

「じゃあ錦風部屋同士で当ててもいいよ」と、訳の分からない反論。

最後は「そんなの太相撲だって同部屋の対戦なんてないんだから紙相撲もあるわけないだろ」と、ごもつともな朝日松理事長の一言で一件落着。

まだ初日を取り終えたばかりだが、この8名の錦風勢が朝日松理事長を悩ませるような活躍を見せるか。

今場所待望の関取誕生で活気付く、秋田部屋の2力士もじわじわと中軸まで番付を上げ親方からも達子波に続く期待がかかる。難波山は惜しくも黒星だったが千曲海は初日白星を飾った。来場所十兩を狙える位置まで番付を上げられる活躍を見せる事ができるのか。

初幕下の場所までまさかの負け越した伊勢里の勢。里が鑑島を破って好発進。先場所三段目躍を見せ、今場所こそは優勝争いに入ってきた。下では天真と如月が、ともに危ない相撲。と見せて初日を飾った。(山里&香具山)



伊勢里○(寄り倒し)●鑑島



綱櫻●(寄り切り)○若草山



菊地原●(寄り切り)○逆本

三段目、序の口

三段目では清水山、若播磨、平田ら有力力士が順当に白星をあげた。

なかでも山里部屋の平田は序ノ口、序二段と連続優勝に続き、三段目初日も白星で11連勝。荒の城、逆本の連勝の更新が期待される。

序二段で注目を集めたのは先場所序の口優勝した平戸波。対戦相手の神宮は先場所千秋楽に4勝同士で雌雄を決した相手。

リベンジに燃える神宮の攻めに耐えて、今場所でも平戸波に軍配が上った。



平戸波○(寄り切り)●神宮



平田○(取ったり)●熊王



片貝●(寄り切り)○志方山

先場所負け越して序二段に戻った加古川部屋の部屋頭志方山だが初日は幕下経験もある片貝を下して好発進。



武陵山○引き落し)●榎山

序の口では中国出身と噂の錦風部屋の武陵山がこちらの実力者の榎山との事実上の優勝決定戦を制して優勝への第一歩を踏み出した。(鹿)